

同 菅野覺兵衛  
 同 西村彦太夫  
 御坊主小頭 中島徳元  
 坊主 二人

一、同廿八日御具足御鏡餅御飾に付、四つ時過鬘斗目・布上下着用御殿に罷出、御横目所に相達、御横目同道に而、御居間書院上之御間御床に御飾、御料理人棟取役笹田幾右衛門等相勤、右御飾相濟候間相詰居候事。

一、延享五年正月六日夕七半時過、のしめ・長袴着御用御殿に罷出、御横目所に相達、御用人中等被相揃、暮過御規式相勤可申旨、吉田孫助申聞に付、御臺所に罷越、御規式之大豆受取、例之通坊主に爲持、前田兵部并御用人御横目同道に而、御坊主小頭安達有悦御手燭持先達に而、御居間書院を初御臺所迄、段々御規式相勤候事。

一、右御規式相勤候御間之覺

御居間書院上之御間

御膳所

御小書院

御大書院  
 御式臺  
 御臺所上之御間

右畢而、御三方に大豆・鬘斗居、御臺所より同心に爲持、御用所杉戸際に而三方請取、前田兵部等列座之前に指置、少退き、御規式相仕廻候段申達候處、御規式首尾能相勤候。

依之御例之通御目錄、小袖一被下之候由、前波和兵衛被申聞、御目錄被相渡、受取之致頂戴、難有仕合に奉存候段申達。右之御三方之大豆、段々頂戴有之。拙者儀も其席に而頂戴仕、御三方坊主引申候。於御臺所上之御間、御吸物御酒致頂戴、重而御用所に罷出、御禮申達、御横目所に茂相達、致退出候事。

一、同十八日四時過、鬘斗目・布上下着用御殿に罷出、御横目所に相達、御具足御鏡餅爲取拂可申段相達、笹田幾右衛門等召連、御居間を罷越、御鏡餅爲取拂候事。

一、同十九日四時過、のしめ・布上下着用御殿に罷出、御臺所上之御間頭中御賄之席に而、御鏡餅・御吸物、御酒頂戴仕候事。

辰正月

宮崎久兵衛

三九 御法事之節會所奉行

勤方覺

御法事方覺書

一、御法事有之前月、會所奉行主付順番之儀、御月番より御閉合有之。其後左之小紙を以被仰渡候事。

附札に、會所奉行に

何院様御何回忌御法事、來月於何寺御執行有之候。御手前儀御法事御用順番之由に候間、主付可被相勤候。萬端何院様何回御忌之趣、可被相心得候事。

右之通小紙覺書、御法事奉行或は御月番之方御渡被成候事。

一、御法事御奉行并執筆中主付、且又寺社御奉行之内主付、同與力中主付、御飾奉行等之假名承合可申事。

一、御月番に指出候紙面、半切に而折懸包。

覺

一、一人 御算用者

右何院様何回御忌御法事爲御用請取申度奉存候間、御算用

場御奉行に被仰渡候様に仕度奉存候。以上。

何月何日

誰

御月番誰様

覺

一、二人

留番足輕

一、二人

小者

右何院様何回御忌御法事爲御用受取申度奉存候。割場奉行に被仰渡可被下候。右御用に付、足輕・小者不時受取候節も、私斷次第無滞相渡候様、是又割場御奉行に被仰渡候様仕度奉存候。以上。

何月何日

誰

御月番誰様

一、寺社御奉行主付之方に遺候紙面。半切に而。

何院様何回御忌、來月於何寺御法事御執行に付、會所方主付私儀相勤候様、御用番誰殿被仰渡候。於御寺右御用新出來物并御修覆物可有之与存候。早速右帳面被指出候様可被仰渡候。爲其以紙面如此御座候。以上。

何月何日

誰